

# 天台宗 西光寺

住職  
長谷 瑞信 氏

取材：2025年11月5日



天台宗 西光寺  
長谷 瑞信 氏

全国でもめずらしい  
三十三身像のある  
調布のお寺

旧甲州街道沿い、京王線西調布  
駅から北へあるいて三分。  
調布市内で唯一の仁王門も残っ  
ている、歴史のあるお寺「西光  
寺」さん。

ご住職の長谷さんは大変お話し  
手な方で、物語を聞くように色々  
なお話を飽きずにお聞きしてくま  
しました。

修行中の様子など、普段知るこ  
とのできないお話も満載です！



天台宗 西光寺

毎年8月10日の四万六千日では、  
全国でもめずらしい三十三身像も  
ご開帳しております。

甲陽鎮撫隊を従えた近藤勇が甲府に  
向かう途中、西光寺前で休息していた  
ことにちなみ、境内には近藤勇の  
銅像も安置されています。

〒182-0035

調布市上石原1丁目28-3

TEL：042-482-3320







村野広報委員長

法人会の会報誌に、広報委員長が行く！という企画で、会員の方にお話をお伺いしてインタビュー形式でまとめています。前回の企画では、若手の経営者ということでインタビュ先を選定させて頂いたので、今回は歴史のある場所を巡りたいと思います。早速ですが、ホームページを見ましたところ六三十年ほど前に開かれたとありましたが、室町時代頃でしょうか。

長谷さん

そうですね。南北朝の終わりなのか、はっきりとは分からないのですが。

ではなぜ六三十年という数字が出てくるかというと、このお寺の前身、大元はこの場所ではなく、もう少し川の方だったろうと言われています。

ここは上石原という地域ですが、甲州街道沿いに布田五宿がありました。江戸時代に幕府の天領地として、国領、上布田、下布田、下石原、上石原で五ヶ村と言います。うちは一番西の端ですが、もともと上石原というくらいですから、もっと多摩川の方にあったようです。この辺り今は布田と言いますが、元々は布田郷村で、そこに上石原も下石原も移ってきました。その頃お寺も一緒に移ってきたのです。

今でこそ西光寺と言っていますが、移ってくる前は「石原聖天坊」という名前でした。書物にも「石原聖天坊」と載っていて、これがお寺の名前だったというのが分かっています。  
(お寺として) いわゆる檀家さん(ができ始めたの)は、あくまで江戸時代以降、三代家光公の頃からです。

長谷さん

その頃に村ごと移動してきて、お寺が役所代わりになりました。

この辺りや府中もそうですが、どこも藩に属さない天領地で、うちの「石原聖天坊」もどちらかというところと祈禱所で、<sup>※しゆげん</sup>修験系の修行をしたと思われるのです。ですがもう記録が残っていないのです。

※修験：山野や霊山などで苦行を積み、靈験ある法力を身につける修行のこと。





長谷さん

ですが、歴代の住職についていくつか記録が残っている中で、初代の和尚の三十三回忌を行ったという記録がわずかに残っているのです。それは『私案鈔』<sup>しあんしやう</sup>という、深大寺の昔の書物です。

非常に優れたお坊さんがいて、その方が法要の際に、趣旨を述べ

<sup>ひょうびやく</sup>

る「表白」というものを書き残していました。お寺の初代の三十三回忌の表白が『私案鈔』に載っているのです。三十三回忌ということは、三十二年前まではその方が生きていたわけです。

ということとは、その時にはお寺があつたよね、と。それで少なくとも六三十年ほど前にはあつたということで、だいたい年数が特定できました。

村野広報委員長

そういう経緯なんですネ。

ちなみに私も府中の白糸台で、上染屋村の出身です。やはり川の方から、旧甲州街道ができた時に上がってきた部落のような感じで、お寺は武蔵野台の本願寺です。

長谷さん

そうですね。（本願寺は）親戚のおばあちゃんの実家です。

村野広報委員長

ご親戚でも宗派が違うのですネ。

長谷さん

今でも宗派の垣根を越えて奥さんをもろうことは結構あります。

やはり業界の人同士だと勝手がわかっていふということ、お寺のお嬢さんがどこかのお寺に嫁に行くというのはよくあることなんです。

村野広報委員長

そうなんですネ。

行事等はどんなことをされているんですか？

長谷さん

年中行事で特色のあるものとしては、まずお正月です。このあたりは「調布七福神巡り」というのがあつて、うちも七福神巡りの一つになつていて、大黒様がいらっしゃいます。

御拝観自体はいつでもできますが、御朱印をお授けするのは一週間だけというところで、調布七福神巡りの札所にもなっています。他にもお行は地味にいろいろやっています。

謹賀新年



長谷さん

二月十五日はお釈迦様が亡くなった日で、「涅槃会」<sup>ねはんえ</sup>といひます。

うちにすごく大きな涅槃図があるのです。この規模のお寺にしては立派なもので、調布の什宝になつてい<sup>※ねはんず</sup>ます。この涅槃図を掛けて、その前で供養をしたりします。あとは、境内でお焚き上げをしています。



※涅槃図：お釈迦様が入滅されたときの様子が描かれているもの。



# 天台宗 西光寺

住職 長谷 瑞信 氏



長谷さん

いえ、この（建物の）前にある  
広いところです。

あそここの空間は、もったいない  
といえどもったいたいです。父  
から「ここは人が集まるところだ  
から、ああいふ場所を残すんだ」  
と言われて私も残しています。

そういう（護摩焚きをする）時  
や、夏の盆踊りをやる時などにす  
ごく重宝している場所です。

本当のことを言うと、お葬式の  
時にテントを張るのに使うことが  
一番多いですが。

長谷さん

年中行事の話に戻ると、お寺で  
は当たり前のものですが、四月八日  
の花祭りもあります。

これはお釈迦様が生まれた日で  
す。クリスマスに比べるとマイナー  
で、今ではハロウィンのほうがよっ  
ぽど大きなイベントですね。

村野広報委員長

甘茶を飲む日ですよ。

長谷さん

そうですね。花祭りでは、甘茶を小  
さなお釈迦様の像にかけます。うち  
でも「花御堂」を出してお祝いしま  
す。

なぜそんなことをするかという  
と、お釈迦様が生まれた時に甘露の  
雨が降ったという伝説に基づいてい  
ます。生まれてすぐに歩いて「天上  
天下唯我独尊」と言ったという話も  
ありますが、私は言っていないと思  
います。（笑）

どんな宗教でもそうですが、話は  
どんどん大きくなっていくもので、  
例えばキリストが磔にされても生き  
ていたとか。でも子供は信じますよ  
ね。お釈迦様の話も、きつと少し違  
った話から出てきたのではないかと  
思います。

村野広報委員長

そうですね。さすがに生まれて  
すぐなんてね。

長谷さん

あと、一番人が来るのが八月で  
す。八月十日が観音様の縁日で、  
「四万六千日」と呼びます。この日  
にお参りすると、四万六千日分のご  
利益がありますよ、ということにな  
っています。

そうすると、もう当分お参りしな  
くてよくなりますね。だからとても  
たくさんの方が来られます。

うちではこの日に合わせて前の日  
から二日間、盆踊りをします。  
財政難でしばらくやめていたのだ  
ですが、私が所属していた消防団の仲  
間たちが「楽しかったからやってほ  
しい」と言ってくれました。それ  
で、青年会の後輩たちが中心になっ  
て、またやろうという話になったの  
です。







村野広報委員長

青年会の方たちも踊りたかったんですね。（笑）

長谷さん

そうなんですよ。（笑）

青年会ではお金がないから、何か販売でもした方が盛り上がるからどうかと思ったのですが、「自分たちは踊りたいんだ」と言うのです。なぜかと聞いてみると、青年会ってお祭りの会みたいなのなので、お祭りシーズン以外には特に活動がないんですね。でも団結して何かしたいし、女の子の中には浴衣を着たい子もいるみたいです。

それなら、と踊りを習ってきてもらい、舞台の上で下手でもいいから君たちが中心で踊ってね、と頼んだんです。それで、青年が中心で踊っているという少し珍しいかたちです。

まあ、上の人たち（舞台上の青年）は、実は下の踊りを見ながら踊っているのですが（笑）。

村野広報委員長

下で踊っている方がお手本なんですね（笑）。



長谷さん

はい。あとは健全育成ですね。なるべく百〜二百円で（子どもたちが）楽しめる縁日をやりましょうということになりました。

（青少年）健全育成会では食べ物などを担当することが多いのですが、うちの世話人会ではスーパーストールすくい、おもちゃの金魚すくい、お菓子のつかみ取りなどお祭りのようなことをすると、子供が来るんですよ。最初は本当に少人数でしたが、今はすごい数です。

ただ、子どもは七〜八時には帰ってしまいますので、最後は残った大人で踊りたい人がひたすら踊っています。

村野広報委員長

子どもたちが帰って、夜は大人たちの時間になるんですね。

長谷さん

そうです。

でも最近は子供をお寺に呼ぶことは非常に戦略的にも正しかったと思っています。どうして今まで気づかなかったんだろうと。

子どもが来るということとは、親がついてきます。一番そこをターゲットにしなきゃいけなかった。どうしてかという、私たちが普段付き合っている檀家さんというのは、おじいちゃんおばあちゃん世代がほとんどなのです。

長谷さん

もちろん、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に（子どもが）来ることもあるでしょう。ですがやはり親とくることが多いですので、親がこのお寺はいいお寺だと思っていただけて、いざ自分の親が亡くなられたときなどに、元々の檀家さんはもちろん、「あのお寺さんがいいな」と思ってもらえたら、というのがあります。

村野広報委員長

子どもの代までお付き合いができれば、それが一番いいですよ。







長谷さん

ただ、その行事自体は赤字です。持ち出しばかり。

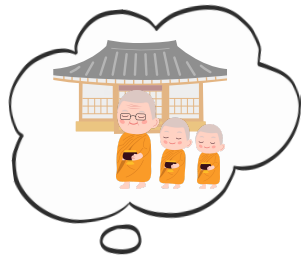
だけだとえ三十万円くらい赤字でも、広告宣伝費だと思えば安いものです。

どこかに常設の看板を一個置いたら、それだけで十〜二十万円になるじゃないですか。広告なんていくら出したって、「商売してるんだな」と思うだけです。お寺がお墓の広告を出していたとしても、お墓が欲しい人はそんなものを見なくたって自分で探します。それ（お墓の広告）を見て行こうと思う人はあまりいません。

でも、何百人という人たちがうちに来てくれて楽しんで帰ってくれたら、何かのときに思い出してくれる。そういうのもあって、最近ではいろんなイベントを断らずにやっています。

村野広報委員長

イベントとしても楽しいし、広告代わりにも良いですね。



長谷さん

他にも、近藤勇の生誕地祭りというのをここでやっています。これは子供向けというわけではありませんが、近藤勇が上石原村の出身なので、年に一度それを認識してもらうためにやっているものです。私（西光寺）のイベントではないのですが、場所を貸していたり、生誕祭なのでお経をあげていたりするのです。



ついでに、同じような発想で子供を呼ぶために、Eの東京さんとか色々なところにイベントを頼んでいます。

（近藤勇の生誕地祭りは）親父の頃からやっていたので断れないのですが、自分は今、一体何のお経をあげているんだろうと思っています。（笑）

村野広報委員長

お坊さんでもそういうことがあるんですね。

長谷さん

お経自体は普通のお経をあげるのですが、その趣旨を述べるときに「この場合のご本尊様は何ですか」と突っ込まれたらおしまいです。だから、私がやるようになってから、表白を練り直しました。基本的に誕生日を祝うお経はないと思うんですよ。

全くないわけではないですが、偉いお坊さんやお釈迦様などの誕生を祝うようなお経のようなものはあっても、（近藤勇は）偉人といえど偉人ですけど一般人用のものはありません。

供養の仕方はいくらでもあるのですが、生まれた土地を喜ぶというのはどうしたらいいんだろうかと。

なので私が何のお経をあげているのかというと、実は「このお祭りが安全に終わりますように」というお経をあげているのです。

この行事を祝いに来ている人たちが無事に過ごせることと、皆さんやこの村の安泰を願うというお経をあげていて、実は生誕のお経は一つも言っていません。

生誕祭に合わせて、と言っているけれど、これが方便というやつです。（笑）





## 村野広報委員長

さつき入口の方で（近藤勇の）像を拝見してきたのですが、あれができたのが二十年ぐらい前、平成十三年と書いてありました。

そう、二十数年前ですね。

像は、（近藤勇を）ずっと研究をしている会があって、その会が建てたんです。

会が言うには、近藤勇の菩提寺は実はここではなく三鷹市の大沢にある龍源寺さんで、そこにはお墓もあるそうです。中もちゃんと首以外は入っています。

そこにも、銅像があるんですが、うちのよりもずっと小さいそうです。

## 長谷さん

だけど、近藤勇と新選組の隊士たちは主にこの上石原とか、この辺の人たちなんですよ。

それで、「我らが上石原に何も無いのは非常に寂しい」ということで、堂々と作ろうじゃないかと。

どこに作ろうかと言った時に、「上石原の中心はここ（西光寺周辺）」である」と。

そして、近藤勇さんが京都で負けて敗走してきて、立て直すために甲府に向かうんですね。結局その途中で負けちゃうんだけど、その時に甲州街道を通って、この上石原で一旦休んだっていう話が一応伝わっているんですね。

伝わり方は非常に危なっかしいんだけど、もう亡くなった畳屋さんのおじいちゃんのお祖父ちゃんが言っていたという。（笑）

## 村野広報委員長

人伝えでのみ、残っているお話なんです。

## 長谷さん

そうなんです。

先に少し触れましたけど、このお寺自体は幕府の命令で移ってきたのですが、それだけではなく、ここは御朱印寺といって幕府から石高を許されていたお寺だったんです。

## 長谷さん

今でも將軍様の御朱印状が何通か残っています。三代將軍からずっと、代が変わるたびに頂いたはずなので、本来は返すものらしいのですが。

だけど、近藤勇は幕府側でしょう。幕府側の人をかくまって、どこかに記録を残そうものなら、後から来た官軍に「ここは御朱印寺だよ。朝敵を匿ったのか」と言われて潰されちゃったりするのが怖いから、絶対に言わないし記録にも残さない。そんな話を得意げに話そうものなら、明治政府に目をつけられちゃうかもしれないから。

そういうことだと思いますよ、私の想像ですけど。

それで、休んだ場所だからというところで銅像を置かせてくれと言われる中、当時住職だった私の父は「うちは関係ないから」と半分断り気味だったのです。それでもなんとか頼むので「じゃあうちの都合で動かそうが、捨ててしまおうが何でもいいです」という念書を書かせて、それでもいいと言わなかった。以前はあそこ目の前で生誕祭をやっていたのですが、手狭だったので今は中（境内内の広場）の方でやっています。





## 村野広報委員長

非常にお話が面白くて聞き入ってしまいました。

我々は法人会なので、税務に関して広報などをする団体なので、やはり宗教法人と一般の営利法人との違いというのは気になるのですが。

長谷さんは、そういうのが一番よく見えるお立場なのかなと思うのですが。

## 長谷さん

うちはまだ、そういう資産収入に頼りきりになるほどの規模ではないのですが、先ほどの石高の名残のようなところがあって、多少なりとも土地があります。

## 長谷さん※べっとう

うちの別当をしていた若宮八幡神社という、もう少し南の方、昔の上石原村の中心あたりにある神社なのですが、二十〜三十年ぐらい前までは、神輿を借りて御飯屋を作って、うちの山門前でお祭りをしていました。

でも、ここまで来る途中に休憩所がないとお神輿は大変じゃないですか。なので今でもその名残で土地があるんですよ。そこに貸地があつたりして、その収入がある程度あります。

※別当 … 数か所の寺や神社を管理する、(別当寺) 統括の役割を担う神社のこと。

## 長谷さん

あとはご承知の通り、宗教法人に関するいわゆるお布施的なものは所得にならず、非課税の収入になります。法人としての経理は二つに分かれていて、一つはいわゆる宗教法人の本業の方の収支。もう一つが課税所得のものです。

土地も完全に分かれていて、境内のところは税金がかかりませんが、駐車場にしているところは固定資産税がかかるので、これは分かりやすいです。はっきり分かるものは当然分けます。

## 長谷さん

あと割り切れないものの、例えば私の給料などは一定の比率で按分します。どんな比率かというと、今は土地の面積比、平米です。

この(お寺のある)広い敷地の部分は非課税なので、私の給料の大半は経費にはなりません。完全に分けて計算して、毎年法人税も払っていますよ。

ただ、宗教法人は税率が低い。だからみんな宗教法人になりました。一定程度の経費を出して、所得が残れば当然法人税を払いますし、利益が出なくても均等割は当然かかってきます。

## 村野広報委員長

そういう経理のお仕事はどなたがされてるんですか？

## 長谷さん

今は一応税理士さんをお願いしています。ただ、以前は私がしていた時期もあります。

私は次男なので、もともとは跡取りではありませんでした。あまり自慢できませんが、東洋大学の経営学部を出て、都内のある会社の経理課にいたんです。

でも実は、その時に税務はやっていたんです。





長谷さん

経理課でも担当が分かれていて最後の二年ぐらいは主に固定資産をやっていました。

寺に帰ってきたら、先代が税理士さんと喧嘩してしまつて、「お前できるだろう」と。それから毎年決算期に一週間、それだけやってきた時期がありました。

でも法人税の申告書は書いたことがなかったの、税務署へ行って「どうやって書くんですか」と聞いていました。それは会社にいた頃のテクニックのうちです。

長谷さん

税務署と喧嘩しても何もならず、むしろこちらから「私は真面目に払います」という感じで行った方がよっぽどいい、ということもよく知っていました。だけど大変でしたね。

要するに比率計算から何から全部自分でやって、固定資産税の按分など、私が(会社で経理を)やっていた頃はギリギリ、エクセルがなかった時代です。

一応、表計算ソフトはあって、その頃、会社の来期予想の数値を作れと言われてある程度やっていたので、なんとかエクセルでやろうと試行錯誤していました。

でも、税務は毎年どんどん変わつてくるし、これは絶対に危険だと思つて、自分が住職になった瞬間にもう全部税理士さんをお願いしています。

村野広報委員長

ありがとうございます。

あとご本尊についてお聞きしたいです。

宗教学がよくわかっていないのですが、ホームページを拝見すると、ご本尊は大日如来となっています。

他のお寺も見ていて、天台宗は阿弥陀如来というイメージがあったのですが。

長谷さん

天台宗の場合は何でもありません。すよ。でも阿弥陀如来をご本尊にしているお寺が、多分一番多いのではないのでしょうか。

先ほどの話に少しつながりますが、うちも実は「石原聖天坊」の頃のご本尊は阿弥陀如来ではないんです。

「聖天坊」と言っていたくらいです。すから、聖天<sup>しょうてん</sup>さんがいらつしやるんです。すよ。どちらかというと、子宝などにご利益があるとされています。聖天様と十一面観音様が対になるという考えがあり、その頃はこの二つが主役でした。





長谷さん

しかし、こちら(現在の石原地区)に引っ越してきて、まだ聖天様では少し調子が悪いということと、当時の身分の高いお坊さんがやってきて、天台宗に改宗しなさいと。

その時に阿弥陀様を本尊としてほしい、そうしようということと新しく阿弥陀様を勧請しました。新しく購入したり作ったりして、阿弥陀様をお迎えしたのです。

※勧請：神仏をお迎えすること

村野広報委員長

お寺のご本尊に阿弥陀様が多いのは、何か理由があるんでしょうか。

長谷さん

阿弥陀様が多い理由は、西方極楽浄土、つまり極楽の仏様という発想があるからです。その西方の「西」をとって、当寺は西光寺となり、その頃からご本尊も阿弥陀様となりました。

うちの場合は観音堂というお堂が別にあり、そちらに観音様と、かつての聖天様がいらっしゃいます。全ての寺がそういうわけではなく、観音様のご本尊でも「南無阿弥陀仏」と唱えるお寺もあります。

長谷さん

仏教は、最初の頃はそれほど多くなかったと思いますが、今では仏様もどんどん増えて、お釈迦様が説いたお経に出てくる仏様以外にも、たくさんいらっしゃいます。今お話した阿弥陀様や極楽に行くという思想は、仏教が成立した頃にはなかったことが分かっています。後からできた教えですが、それもお釈迦様の教えということになるのです。

村野広報委員長

そうなんです。結構なんでもありなんですね。

長谷さん

もともと仏教は修行の教えだったんですよ。今でもチベットや東南アジア方面に伝わった仏教は、袈裟をつけて托鉢をしています。修行僧だけが悟りを開くことができ、修行僧に施しをすることは一般の人々にとっても良いことだ、という教えです。

一方、日本に伝わった仏教は、次第に(思想が)民衆の方へ向かっていきました。とどめは檀家制度です。

民の幸せ、しかも死後の不安も取り除くという思想がどんどん強くなり、最終的には多くの宗派が分かれていきます。

長谷さん

現在は主な宗派で言えば、真言宗や禅宗といわれる曹洞宗、臨済宗などがありますが、坐禅を主にする宗派でも、坐禅だけでは檀家さんと触れ合えません。ですから坐禅もしますが、もちろん普通の供養や先祖のための供養も行います。

天台宗も元々は帝などのためのもので、自分たちは修行をするという立場でしたが、そこに極楽へ導くという思想が後からついてきたのです。

もっと極端なことを言うと、今でこそお寺や会館で葬式を行います、少し前までは自宅で行うのが普通でした。家から出棺してお墓に入れて帰ってくるので、お寺に行く理由は本来ありません。昔はそこに(自宅での葬儀)お寺の人が付き添うこともなかったでしょう。





# 天台宗 西光寺

住職 長谷 瑞信 氏



## 村野広報委員長

確かに、昔は結構自宅でお葬式することも多かったですね。

（昔の）字が読めなかったりする人たちに、いくらお経を読め、写経をしると言ってもできません。そして、日々の暮らしが大変な人たちに仏教を説いても、何にも刺さりません。そこで、新しい宗派ほど教えが優しくなっていました。「南無阿弥陀仏」と唱えれば極楽に行けるよ、とまず浄土宗が言いだしたんですね。

## 長谷さん

浄土真宗はさらに、悪人だって極楽に行けるといって「悪人正機説」を説きます。私はこの考え方が嫌いです。ありません。いわゆる民主主義の法曹、殺人を犯しても推定無罪の原則に、ある意味似ていると思っています。

そうやって日本でも仏教が広まっています。

その後、日蓮宗は、いよいよお題目だけを言えば大丈夫、ということになります。すごいですよね。しかし、その方が広まります。

やがて江戸幕府によって、あなたはこのお寺の檀家だと指定され、自分の宗派が決まってしまう時代になりました。うちなども半ば強制的に全員が天台宗になったのです。

## 村野広報委員長

なるほど、仏教の広まり方も色々なですね。

ちなみに、長谷さんは仏教系の学校に行かれたとか、もともと勉強をされていたんですか？

## 長谷さん

サラリーマンを辞めて、最初に六十日間、丸二ヶ月の修行に入りました。そこで基本的なことを身につけました。

辛いですよ。ずっと正座なので足が痛みますし、やり方がいやらしいのです。

## 長谷さん

班行動なので、一人ができないと連帯責任になります。

食事でも正座で、音を立ててはいけません。でも早く食べないと、正座が長引いてしまつて立てない。食べるのが遅いと皆を待たせることになります。

そうすると、食べる前に量を減らすことはできるので、減らしていきます。どんどん痩せていき、私は六十キロくらいあった体重が、四十八キロまで落ちました。食べるのが遅かったのも、仕方なく減らしていった。途中から慣れてきて少し食べられるようになりましたが。

## 村野広報委員長

二ヶ月でそんなに痩せてしまうんですか。それは過酷ですね。







長谷さん

昔はもっと長くやっていらしいのですが、最近は副業的にやっている人や、僕のように他の仕事をしていて引き継ぐためにやる人が多いのです。

地方では兼業のお坊さんも多いですし、(仕事を)一ヶ月も休めません。以前は三ヶ月だったものを短くした分、厳しくなったのです。

村野広報委員長

仕事を二か月も休むっていうのは、確かに難しいですよ。

長谷さん

(修行中は)携帯電話は取り上げられ、手紙も検閲されます。食事中も、一切音を立ててはいけません。器を置くのも静かに。

ちなみに、食事の時は毎食たくさんが二枚出るのですが、これはなんのためかというと、最後にお茶で器を洗うためです。



長谷さん

食器にお茶を入れ、たくあんを拭きながらきれいにし、最後にそのたくあんで食を食べて終わりです。  
せんぱつ  
洗鉢と言うのですが、それを毎食やります。

そして後半になると起きる時間は午前二時頃になります。前の晩の八時には終わるので、それからずっと寝てもいいのですが、カリキュラムがどんどん足されていくので、寝られません。

慣れてきた頃にまた次の段階へ進み終わらなくなりますので、睡眠時間はほとんどなくなります。思い出したくもないですね。

金縛りになることもあり、最初は怖かったですが、毎晩のようになると疲れているからだと分かるようになりました。

村野広報委員長

どんどん宿題が増えていくんですね。

長谷さん

そうなんです。

とりとめもなく喋ってしまいました。ですが、こんな感じで大丈夫なんでしょうか？

村野広報委員長

いえいえ、とてもお話し上手で聞き入ってしまいました。

村野広報委員長

突っ込んだことも色々お話をくださって、大変面白かったです。

今日はお時間いただいてありがとうございました。

長谷さん

ありがとうございました。

